

2002年10月31日

**Baxter****バクスター株式会社**

〒102-8468 東京都千代田区六番町 4

## 日本導入の準備が進む、バクスターの次世代透析液 2種類の新透析液で患者の一層のQOL向上を図る

腹膜透析療法のパイオニア、バクスター（東京都千代田区、星川恭治社長）は、慢性腎不全患者のQOL（生活の質）と治療効果向上を目指し、新たな透析液2種「イコデキストリン含有透析液」と「バイカーボネート含有透析液」を開発、日本への導入準備を進めています。

### 治療継続不可となる最大要因は除水不足：

腹膜透析は患者自身の腹膜を利用して、24時間連続して血液中の余分な水分や老廃物を除去する治療法であり、社会復帰を容易にする在宅治療を可能にしたものですが、生体膜を利用するために、長期継続すると水分や老廃物の除去効率が徐々に低下することがあります。治療を続けられなくなる場合、その原因の実に4割近くが水分の過剰であることが統計によって判っています。水分の過剰は、高血圧や心血管系への負担を増やし、QOLの悪化のみならず不幸な臨床転帰をたどる原因となることが多々あります。米国バクスター（イリノイ州、ハリー クレーマー会長 兼 CEO）はこの点を「最優先事項」として改良する目的で、1997年に“**イコデキストリン含有透析液**”を開発しました。この透析液は優れた除水効果（従来の15 - 25%増）とともに、腹膜への刺激が強いといわれているブドウ糖分解産物を産生しないという特徴を持っています。欧州やアジアの一部では、すでに“EXTRANEAL”の名称で発売され、同地の腹膜透析患者の30%前後の方々が使用しています。米国および日本でも厳しい基準に基づいた臨床試験を終了し、現在、医薬品としての認可を待っています。

### さらに新しい透析液を日本市場向けに開発：

バクスターはまた、日本市場向けに新しい腹膜透析用透析液を開発し、約20億円を投資して2002年中に日本で臨床試験を開始します。この“**バイカーボネート含有透析液**”は、生体適合性が高い重炭酸（バイカーボネート）を用いているため体に優しく、同時に中性に調整されたものです。臨床試験を行って開発される中性透析液としては、日本で初めてのものです。

### 新透析液導入の背景：

日本透析医学会が発表している統計結果（2001年末時点）をみると、日本の透析患者は現在21万人を超え、ここ数年は毎年1万人前後の増加傾向が認められます。従来、透析に至る最大の原疾患は慢性糸球体腎炎でしたが、今日では、糖尿病性腎症に由来する場合がもっとも多いことも特徴です。高齢化社会の到来、また糖尿病、高血圧といった生活習慣病が今後も増え続けることが予測される一方、患者さんが治療を続けながらも「少しでもQOLの高い生活を送りたい」と考えることもごく自然な傾向といえます。より優れたQOLと治療効果を目指して開発されたこれらの新しい透析液の登場により、近い将来、さらに多くの患者さんに対応できる質の高い腹膜透析治療提供が可能となります。

**この件に関するお問い合わせ先： バクスター株式会社**

コミュニケーション室 電話 03-5213-5100 FAX 03-5213-5638